

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400967		
法人名	有限会社 楽舎		
事業所名	認知症高齢者 グループホーム宇賀の杜 楽舎 ②東		
所在地	島根県出雲市宇賀町23番地1		
自己評価作成日	令和6年11月10日	評価結果市町村受理日	令和7年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和7年1月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宇賀の杜楽舎の理念「入居者の方と生活を共にし、暮らしを支え命を護る」「一瞬の笑顔求めて…」が日々実践できるように取組んでおります。東舎支援目標の「利用者様の自己決定を尊重、月毎に個別支援に取り組む」を掲げ、好きな飲み物の選択や野菜作り、お散歩や買い物、外食など個別にやってみたいことを毎月決めて取組んでおります。毎月の支援目標に沿った取り組みを行うことで楽しみや喜びを感じていただける支援をしております。温かいお食事の提供や季節の行事、風習に合わせて思い出話をしたり歌を唄ったりすることで笑顔の溢れる時間となるよう支援し、御家族様にも喜んでいただける様に支援しています。地域にも積極的に出掛けドライブや買物、地域行事への参加をすることで社会との繋がりを大切にしながら支援へ取り込めるように取組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成18年に宇賀の杜の2つのユニットがスタートし、その2年後のもう1つのユニットが加わっている。田園風景が眺められる自然豊かな場所にあり、開所から20年近くが経過する歴史ある施設である。3つのユニットを1人の管理者がまとめ、開所当初に掲げられた理念を継続し、利用者、職員共に毎年目標を掲げ、グループごとの支援目標達成の為に月間目標へと繋げられている。男性利用者や精神面のケアが必要な方が増えたり、利用者の入れ替わりがあり、今まで以上に個別援助の必要性を感じている。コロナ感染症やインフルエンザが発生して感染症対応が続く中、利用者個々のケアにあたる時間をどのように作り出すが課題となり、業務改善の必要性から積極的な意見も多く聞かれている。今後も徐々に戻りつつある地域との交流を増やしたり、活動的な取り組みを検討したりと、複雑化する認知症に対応できるよう取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に事業所の理念や毎月の理念(スタッフが考案したもの)を共に唱和し、理解と周知を常に行っている。	開所時に作成された理念を継続しており、それに基づいて毎月の理念を職員が順番に作成し、併せて唱和している。施設長、管理者を含め職員全員が年間目標を作り事務所に掲示し、原点に立ち返ることを大事に考えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	訪問の理髪店や食品の移動販売を利用し地域の資源の活用をして、定期的に地域の文化祭や郵便局に作った作品の展示をさせてもらっている。	地域の活動は戻りつつあり、文化祭には作品を展示し見学に出かけている。小学校からは福祉活動の受け入れの要請があったり、介護職を目指す学生から介護職員としてインタビューを受ける予定もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度行っている運営推進会議において、介護技術や認知症ケアについて実践していることを発表し、啓蒙している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施して参加者として、利用者、利用者家族、地域代表、市などから意見をもらっている。	定期に開催している。家族への参加をお願いするも少なめ。地域からはコミセンの館長やボランティアの方、行政からは市職員を交え行っている。利用者状況に各施設の報告事項、議題は各リーダーが毎回出しあい、意見交換に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者が参加し、事業所での取り組みや支援方針など報告し、意見交換している。	運営推進会議には毎回参加があり、専門的立場から助言を受けたり他施設の情報を得ている。生活保護担当課からは年2回訪問があり情報共有している。介護保険担当課とはメールや郵送が主で出向くことは少ないが、いい関係が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に当たりそうな支援が見受けられる時にはカンファレンスを行い、本当に必要であるか、あるいは身体拘束になるのかなど話し合っている。	委員会、研修等定期に開催しているが、従来通りの読み合わせのような研修ではなく、男性への対応など利用者個々に合わせた研修になるようにしている。グレーゾーンや不適切ケアについては、事例を用いてより具体化して取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の内部研修で虐待についての研修会を計画し、実施している。日頃からスタッフ間で注意し合えるような話し合いの場をもっている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の内部研修の中に権利擁護についての議題で実施している。権利擁護推進委員も配置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居についての契約書を用いながら、丁寧な説明をしている。また、退居要件、料金については詳細に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヵ月に一度の運営推進会議において、利用者様や家族様にも出席してもらい、アドバイスや意見をもらっている。	日頃の様子や行事の写真を送ったり、便りを作成している。それに加え担当から毎月の様子を手紙に書いて家族に送り、意見を得る機会としている。電話や面会時にも様子を伝えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見や思い、あるいは不満などを聞く姿勢を持ち、適宜アドバイスや説明を行っている。	年度終わりに管理者との面談の機会がある。日々の検討事項については、送りノートで共有するようにして内部研修でも改善点を話し合っている。有休取得や勤務変更に対応することで、働きやすく離職に繋がらないように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社と職員間において契約書を交わし、給与面など分かりやすくなっている。また、資格手当等充実しており、モチベーションアップにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務を各職員に振り分け責任ある行動を行うようにしている。月1回の研修会も職員が担当して実施することでレベルアップを促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他事業所の管理者とのコミュニケーションをとり、活動や取り組みなどの情報交換をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時などの早い段階から不安や困難な事項を把握しお話を聞くことで関係作りに努めている。生活の中で問題が生じたら場合は都度スタッフで検討し支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を始めるにあたり、家族様から意見(希望、要望)を十分に伺い安心して頂けるよう信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様がおかれた状況を見極め、何が必要か話し合い、家族様やかかりつけ医とも連携しながら支援とサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性と生活歴を大切にし、できる事は本人にさせていただき活躍の場を提供することで自信につながる支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙で家族様に様子をお知らせし、家族様が来所の際には、モニタリングとケアプランの要望を確認し共に支援できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴を傾聴し、生活されてきた地域に共通の理解ができる方を近くに配置したりお話がしやすいよう間に入る支援もしている。継続して馴染みの方々との手紙や電話、面会が可能となる様に支援している。	毎週娘さんと電話で話をする方や、高校の同級生の面会が続いている方もある。コロナ禍が続く支援を縮小していることで、閉鎖的と感じる方もあり、今年度は散歩や買い物の機会を増やすよう計画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い方同士、難聴の方、理解が困難な方等、配慮しながらホールの座席を配置している。職員も間に入り、良好な関係が築ける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にはアルバムを渡し、サービス利用が終了しても必要に応じ、相談や支援を行っている。家族様から新しい環境に移られた後の様子をお手紙でいただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や思いを傾聴し、新聞を読まれたり、塗り絵、貼り絵等の趣味活動へ参加されたり、個々の生活習慣を尊重し意向に添える様、支援を行っている。	自立支援、自己決定を重視しており、幾つかの選択肢を設けることで、やりたいことを聞き出すようにしている。今年度はアクティビティな効果が得られるものを取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族様より生活歴や今までの暮らし方など聞き取りして、その方らしい生活ができるよう支援している。デイサービスからの入所の場合は、デイサービスの職員からの情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握し、毎日の記録(カルテ)や身体状況の表に記録し、一目ですぐに分かる様にしている。また、毎日の申し送りでも職員間で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の意向・要望をケアプランの目標として定めている。面会された際に家族様からも要望を伺い、ケアプランへ反映している。	モニタリングを3か月に1回まとめ、面会時に家族に説明しサインをもらっている。コロナ禍が続く、本人、家族参加での担当者会議はできていないが、面会時や電話で意見を聞くことで計画作成に繋げている。	利用者本人、家族等、できるだけ多くの関係者で担当者会議を開催することで、家族との信頼関係を築き、より良い計画になるよう努めていただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録でケアプランの評価ができるよう作ってある。利用者様の変化や気づきがあれば、申し送り時や月1回実施のユニットカンファレンスにて情報共有して、ケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療受診は家族様対応だが急な受診や遠方の方等状況に応じて職員が付き添い柔軟に対応している。有償ボランティアの対応も可。かかりつけ医、医療連携NSは24時間電話で連携している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の修繕ボランティアの方に衣類の修繕をお願いしたり、生け花のボランティアの方が来訪されたり、作品を地域の郵便局に飾らせてもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は24時間受け入れ体制がとれている。体調の変化があれば都度報告し指示をもらっている。2週間に1回の往診診がある。	往診可能で24時間指示が得られる施設のかかりつけ医に変更することも、今までのかかりつけ医を継続することもできるようになっているが、殆どの方が入所時に変更される。他の科については家族対応で継続している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は体調の変化等あれば、身体状況表に記載することと合わせて看護師への報告を行い、指示を仰いでいる。24時間オンコールの対応をする看護師を配置している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はカンファレンスを実施し、医療機関への情報提供と情報共有を行う事で、ご家族様、ご本人様が安心して治療を受け入れる体制がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期における対応について説明をしている。状態に変化があれば都度説明報告をし、状況に応じた最大限できる支援を行っている。	入浴は一般浴で機械浴ではない等の設備面の実情を入所時に説明している。重度に向けては医療連携ができていることもあり、その都度話し合いの機会を持ちながら、特養の申し込みの話もするようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、マニュアルシートと119シートを作成し、1人ひとりの日頃のバイタル値や病歴等を把握、確認している。救急対応と合わせて、AEDの使用や心肺蘇生法は機器を使って研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を年2回実施して水害、土砂、原発事故の避難マニュアルを作成し、連絡網は地域のコミセンと連携がとれるようにしている。避難アセスメントはホールに掲示し職員が把握できるようにしてある。	豪雨時には浸水の恐れがあるので、豪雨に対応できるように訓練を重ねている。消防の指導や地区の消防団の協力も受けながら、備蓄も整え有事に備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け時には自尊心を傷つけないような対応を行っている。更衣や排泄等はカーテンや戸を開めプライバシーに配慮している。プライバシーに関する会話をする際には周囲に配慮している。	この地域独特の言い方がきつく聞こえることや、何気なく使っている言葉が実情に適していないなど、会話が外部の人からどのように聞こえるのか等、研修時や朝礼で話をするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲みたいものを聞き、好きな飲み物を選んで頂いている。外出時や祭りなどで食べたい物を聞き、食べて頂いている。レクなどでも好きな色を選んで頂いたり、好きな活動を聞き参加して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れはあるが、昼寝をされたい方、新聞を読んだり、作業をされる方など一人ひとりの要望やペースに合った対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、移動美容室の利用や、男性は毎朝ひげそりの支援、女性はまゆを書いてさしあげている。髪を整えたり、衣服が汚れているときは、着替えて頂く等支援している。着たい衣服を選べる方には選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常生活の中で食べたい物を聞き、買い物に行きメニューに取り入れたり、誕生日にはその方が食べたい物をメニューに取り入れたり行事なども楽しんで頂いている。	買い物に行ったり、地域からのいただき物を利用したり、できるだけ地域の食材を使い3食作っている。熱い物や冷たい物など好みに合わせ、できるだけ美味しく食べれるようにしている。誕生日にはお好み食を聞いて出すようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態や量を提供している。トロミの必要な方にはトロミをつけている。水分摂取が難しい方にはスポーツドリンクなど飲みやすい物を提供している。毎日、水分や食事量の記録をして把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っている。自分のできない方には介助し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合った排泄用品を使用している。定時のトイレ誘導を排泄パターンに合わせて行うことで夜間良眠していただけるように支援している。	男性でトイレに座る習慣がない方や夜間尿漏れのある方など、個々に合わせ対応している。便秘の方が多く浣腸や座薬が必要になる為、水分摂取を含めて食事に気を付けたり、体操を取り入れたり、スムーズな排泄に繋がるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動(ラジオ体操、下肢、上肢、歩き歩き)、の実施、水分摂取を工夫するなど支援し、便秘の方には起床時冷たい牛乳を提供して便秘予防ができるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴順は熱めのお湯の方、ゆっくりと湯船に浸かりたい方など把握して対応している。湯船に入れない利用者様は足浴しながらシャワー浴を行っている。2日/1回のペースで入浴できるようにしている。	大きめの家庭浴槽で浴槽周りが広く、冬は温度が上がりにくい。重度で車イスの方で中に入れない場合はシャワー浴対応としている。1日おきの午前中に声がけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にある温湿度計を設置して、気温・湿度に注意し快適に休めるようエアコンを使って空調管理を行い寝具も清潔を保てるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬示の確認を行い理解した上で服薬時には日付、名前を声に出して読み上げ、間違えないようにしている。薬の変更時には様子を観察して記録している。週1回、薬剤師より説明を受け、把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事、得意な事を把握してやりがいを感じていただき、行事を取り入れ、楽しみ喜びを感じていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の意見を聞き、ドライブや外出に出かけ希望に沿った支援を心がけている。	施設の敷地が広く、周辺や近隣を散歩することが多い。テラスで日光浴したりお茶したり、外気に触れ気分転換できるようになっている。コロナ感染症が5類になり、ドライブや近くの道の駅に出かけており、普段見れない笑顔が見えたり、外出の効果を感じている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出支援での買い物は頻度は減少しているが、週一度の訪問販売で欲しいものを購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月家族様へ手紙を書き写真を一緒に送付して生活の様子や健康状態などお知らせしている。本人の希望があれば、電話をされる支援もおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、消毒・換気に努め快適に過ごせるよう配慮している。日中はカーテンを開け、外の季節を感じていただけるようにしている。	玄関、事務所を中心に各ユニットが左右対称に建っている。デイルームは天井が高く、広い廊下が続き開放感がある。廊下の左右に畳のベンチがあり腰かけて休めるようになっている。車の騒音も無く静かで、景色もよく見え季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは個々の意向や場の雰囲気など配慮している。ホールのソファや廊下のタタミベンチは休憩されたり、1人になられたり出来るスペースとなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を使用していただいている。家族様の写真を飾ったり、好みの物を飾ったりと、一人ひとりの好みや状態に合った環境づくりをしている。	居室の戸に分かりやすいように大きな字でフルネームが書かれ貼られている。収納は少ないが、季節ごとに衣類布団等の入れ替えを家族が行っている。物入や衣装ケース等が持ち込まれたり、写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や車椅子の移乗が安全にスムーズに行えるようベッドやソファの位置を工夫している。利用者様の個々の身体能力に合わせた安全な動線の確保に配慮している。		